

執筆者紹介（掲載順）

本図 宏子（ほんず ひろこ）

大阪大学経済学部卒業。London School of Economics修士課程修了（地域経済学専攻）。国際協力銀行を経て、国土交通省入省。2014年より（公財）日本海事センターに出向。研究分野は、公共経済学、海運経済。論文に、「LNG輸送の動向とパナマ運河拡張の影響」（共著）、「海事クラスターの歴史分析」（共著、本誌第64集、2015年）、「一带一路構想下における中国海運業の動向」がある。また、日本海事新聞に「マレーシアの海運事情と拡大する中国の影響」、「中国ワールド・ SHIPPING・サミットに参加して～経済減速期における中国海運業界の動向～」(2015年)、「中国海運業発展のキーワードは「連携強化」－新生COSCO初主催のワールド・ SHIPPING・サミット参加報告」(2016年)等を寄稿している。日本海運経済学会所属。

松本 守（まつもと まもる）

九州大学大学院経済学府博士後期課程を単位取得退学の後、九州大学博士（経済学）を取得。九州産業大学商学部専任講師を経て、現在、北九州市立大学経済学部准教授。専攻はコーポレート・ファイナンス、コーポレート・ガバナンス。主要論文は、「海運事業者のコーポレート・ガバナンスと企業パフォーマンス」（共著、2016年日本海運経済学会「学会賞・論文の部」を受賞）、「ソフトな予算制約問題と第三セクターのパフォーマンス－運輸分野を対象とした実証分析－」（共著、2014年日本交通学会「学会賞・論文の部」を受賞）、や“The dark side of independent venture capitalists: Evidence from Japan”（共著）など。所属学会は、日本海運経済学会、日本交通学会、公益事業学会、日本ファイナンス学会、日本経営財務研究学会、日本ディスクロージャー研究学会など。

松尾 俊彦（まつお としひこ）

東京商船大学大学院商船学研究科博士後期課程修了。広島商船高専助教授、富山商船高専助教授、東海大学海洋学部教授を経て、現在、大阪商業大学総合経営学部教授。博士（工学）。専門分野は物流論（インターモーダル輸送、内航海運）。海運へのモーダルシフトの研究を進める中、港湾のあり方にも関心を持つ。近年の論文として「内航海運における船舶管理の在り方に関する一考察」、「内航海運における船員不足問題の内実と課題」、「内航RORO船・フェリー市場の棲み分けと競争に関する一考察」などがある他、『内航海運』、『交通と物流システム』などの共著作がある。当誌には、「日本の港湾政策に関する一考察」（第59集、2010年）、「内航コンテナ輸送の拡大に関する一考察」（共著、第63集、2014年）と過去に2度寄稿。2007年日本物流学会賞受賞。日本物流学会、日本港湾経済学会、日本海運経済学会、日本交通学会、日本航海学会、日本沿岸域学会、IAME、内航海運研究会所属。

水野 英雄（みずの ひでお）

名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程経済学専攻退学。愛知教育大学教育学部助手、講師、准教授を経て、現在は、椙山女学園大学現代マネジメント学部並びに大学院現代マネジメント研究科准教授。専門は、国際経済学、経済政策、貿易政策、教育政策、経済教育で、海事関連では「アジアにおけるクルーズ客船市場」を研究テーマとし、主要論文に「中部地域の観光産業における名古屋港の役割－クルーズ客船による経済波及効果－」があるほか、農産物貿易、経済教育や教員養成などに関する多数の著書、論文、研究・教育活動がある。2013年第1回経済教育学会賞（教育実践部門）受賞。所属学会は、日本経済学会、日本経済政策学会、日本国際経済学会、経済教育学会、日本グローバル教育学会、経済教育ネットワーク、金融経済教育研究会、応用観光研究会、日本観光学会、日本港湾経済学会中部部会、日本人口学会。

神田 英宣（かんだ ひでのぶ）

慶応義塾大学理工学部卒業。民間企業を経て海上自衛隊入隊。艦艇勤務（護衛艦、砕氷艦、輸送艦）、海上自衛隊幹部候補生学校教官、防衛庁防衛政策局BMD研究室、統合幕僚会議事務局第5室、海上幕僚監部防衛部、第1術科学校生徒隊長、防衛研究所政策研究部を経て、2013年から防衛大学校防衛学教育学群戦略教育室准教授。専門分野は海洋安全保障。主な論文に、「中西部アフリカの海洋安全保障－沿岸諸国と欧米の戦略目標の実行－」、「インドの海洋安全保障－インド洋ブルーウォーター戦略の課題」、「島嶼をめぐる安全保障－英亜の対立再燃と今後の動向」、「フランスの南太平洋戦略－海洋をめぐる地域安定の役割」がある。所属学会は国際安全保障学会、日本防衛学会、日本島嶼学会。

鈴木 暁（すずき ぎょう）

法政大学社会学部卒業。神奈川大学大学院経済学研究科博士前期課程修了。（財）日本関税協会、（財）港湾労働経済研究所、東芝情報システム(株)勤務の後、広島商船高等専門学校で助教授、教授を経て、その後、港湾職業能力開発短期大学校で定年まで教鞭をとり、同退職後は日本大学商学部、中央大学商学部、静岡産業大学で非常勤講師を務めた。『国際物流の理論と実務』（単著）、『現代物流概論』、『現代の内航海運』（以上共著）などの著書及び「フォワーダーの限界と可能性」、「海貨業における3PL導入の可能性と課題」、「港湾管理権をめぐる国と地方自治体」、「輸入穀物の港湾検査とTPP」、「海貨業の現状と課題－総合物流業へ向けて」（当誌第57集、2008年）などの論文がある。所属学会は、日本港湾経済学会、日本海運経済学会、日本物流学会、日本貿易学会。元山縣記念財団評議員。

苦瀬 博仁（くせ ひろひと）

早稲田大学大学院理工学研究科博士課程（建設工学専攻）修了。工学博士。日本国土開発(株)技術研究所研究員、東京商船大学商船学部助教授、教授、東京海洋大学海洋工学部教授（2009年～2012年まで理事・副学長）を経て、2014年より同大学名誉教授、流通経済大学流通情報学部教授。専門分野は、ロジスティクス、物流、流通システム、交通計画、都市交通計画、物流施設計画、物流の歴史的な分析等。主著は『ロジスティクスの歴史物語』（2016年住田物流奨励賞）、『都市の物流マネジメント』（2007年日本物流学会賞）、『ロジスティクス概論』など。政府・自治体の審議会、外国招待講演、国際会議や政府・国際援助機関への技術協力等にも多数参加。所属学会は、日本物流学会（前会長）、日本計画行政学会（副会長）、日本都市計画学会、日本沿岸域学会、土木学会、日本航海学会、日本海運経済学会等。2007年より山縣記念財団評議員。

（敬称略）